

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地															
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日		前野 一夫		〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111															
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地															
学校法人片柳学園		昭和31年7月10日		千葉 茂		〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111															
分野	認定課程名		認定学科名			専門士	高度専門士														
文化・教養	芸術専門課程		スポーツ健康学科 サッカーコース			平成26年文部科学大臣 告示第7号	-														
学科の目的	横浜F・マリノスのコーチ陣の指導でプロ選手を目指す「マリノス強化専攻」と、選手及びコーチとしての能力向上を目指す「プレイヤー・コーチング専攻」を設置し、将来、サッカー界で活躍できる人材を育成します。																				
認定年月日	平成28年3月31日																				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技													
	2年	昼間	1700	420		3345			時間												
生徒総定員		生徒実員		留学生数 (生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数														
160人		57人		2人	6人の内数	63人の内数	69人の内数														
学期制度	■前期：4月1日～10月11日 ■後期：10月12日～3月31日				成績評価	■成績表： 有 ■成績評価の基準・方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。 S：90点以上 A：80～90点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下は不合格 P：単位認定															
長期休み	■学年始：4月1日～ ■夏季：8月10日～8月15日 8月31日～9月7日 ■冬季：12月23日～1月8日 ■学年末：3月18日～3月31日				卒業・進級条件	進級要件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること 卒業要件 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること															
学修支援等	■クラス担任制： 有 ■個別相談・指導等の対応 当日中に担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている。				課外活動	■課外活動の種類 卒業作品展示会、ボランティア活動、体育祭、学園祭、外部コーチ実習(横浜F・マリノススクール等)															
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和元年度卒業生) 横浜マリノス株式会社 SAKURA FOOTBALL CLUB 株式会社MPandC				主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業者に関する令和2年5月1日時点の情報)															
	■就職指導内容 横浜F・マリノスの協力による選手セレクションの提供・指導。キャリアサポートセンター、求人斡旋企業により指導。					<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日本サッカー協会C級コーチ</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td>日本サッカー協会D級コーチ</td> <td>③</td> <td>16人</td> <td>16人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	日本サッカー協会C級コーチ	③	13人	13人	日本サッカー協会D級コーチ	③	16人	16人
	資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																	
	日本サッカー協会C級コーチ	③	13人	13人																	
	日本サッカー協会D級コーチ	③	16人	16人																	
	■卒業者数 16 人 ■就職希望者数 13 人 ■就職者数 13 人 ■就職率 100.0 %					※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)															
■卒業者に占める就職者の割合 : 81.3 %				■自由記述欄																	
■その他 ・サッカー選手として活動： 3人 (岳南Fモスベリオ、ザスバ草津チャレンジャーズ、エブリサ藤沢)																					
(令和元年度卒業者に関する令和2年5月1日時点の情報)																					

中途退学の現状	<p>■中途退学者 5名 ■中退率 13.2%</p> <p>平成31年4月1日時点において、在学者38名（平成31年4月1日入学者を含む） 令和2年3月31日時点において、在学者33名（令和2年3月31日卒業者を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 進路変更・経済的問題</p>
	<p>■中退防止・中退者支援のための取組</p> <p>担任と科長による面談。懇談会・電話等による保護者との情報共有。 担任による指導のほか経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてカウンセリングルーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。また、休学者にも復学（転科等）の指導・助言・相談も行っている。</p>
経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有</p> <p>・片柳学園入学金免除制度・若きつくりびと奨学金制度・再入学優遇制度・片柳学園奨学金制度・留学生特別給付制度</p> <p>・ミュージシャン特待生・スポーツ特待生</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 非給付対象</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 有</p> <p>特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構、平成25年度(平成26年3月31日) 受審 https://www.neec.ac.jp/education/accreditation/</p>
当該学科のホームページURL	https://www.neec.ac.jp/department/

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1) 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2) 「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3) 上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

サッカー業界に関連する企業等と連携体制を確保して、適宜サッカーに関する技能の向上や、業界での実務に関し必要とされるスキル習得を目的とした授業科目等を検討し、カリキュラムに反映させる。カリキュラムについては年度ごとに総合的に検証する。なお、学内外の実習設備や施設等を活用し、派遣された講師による年間を通じた定期的な指導や評価を受ける体制をとることが可能な企業等をスポーツ関連業界より選定している。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、校長を委員長とし、学科責任者、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
原田 直樹	非特定営利活動法人Eisvogelスポーツクラブ 理事	令和2年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	①
原田 稔	東急スポーツシステム株式会社取締役 運営推進部長	令和2年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	③
池内 成明	株式会社幼体連スポーツクラブ	令和2年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	③
前野 一夫	日本工学院八王子専門学校 校長	令和2年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	
伊藤 茂彦	日本工学院八王子専門学校 科長	令和2年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回（3月・9月）

(開催日時(実績))

第1回 令和1年7月17日 15:00～17:00

第2回 令和2年2月26日 15:00～17:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

クラブチームに所属する保護者からのニーズに答えられる指導力、人間性も重視されるとの意見から、企業との連携を強化しサッカートレーニング1、2などのカリキュラムに反映する。また、ビジネススキルやPC活用などの授業において、社会人として必要なスキル向上を狙った教育を重点的に行う。

指導経験の場を作ることが大切との意見から、インターンシップや現場実習、ボランティア活動への参加を促し指導実践等の経験値を上げていく。サッカーコースらしさの構築・スタッフ連携のための定期ミーティングの開催を開催し、適切な練習時間、選手昇格の頻度など、課題解決のための討議を行う。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

サッカー分野の実務に必要な技術・フィジカル・メンタル・戦術、業界理解を教えるため、最新のプロフェッショナルな専門技術や社会人基礎力養成の助言、協力の得られる企業を選定する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

学内外の実習設備や施設等を活用し、派遣された講師による年間を通じた定期的な指導や評価を受ける体制をとることが可能な企業等をスポーツ関連業界より選定している。横浜マリノススタッフが実施する「指導理論M-T-M方式」に従って、目標（試合での勝利）に向けて、技能・体力向上・戦術理論・チームビルディング、またサッカートレーニング1においてプロのコーチによるコーチング等を学び、サッカーを専門的かつ総合的に学習する。

学年関係なく実力でチーム構成されているA・B・C(2チーム)各チームでは、それぞれのチームでのコーチがトレーニングメニューを分担し選手に指導している。マリノスメソッドをベースとしたスキルの向上を目的としたトレーニングメニューを構築している。また、4チームのチーム編成ではあるが、ベースとなる技術、戦術、フィジカル、メンタルなどのメソッドは共通理解のもとでトレーニングを構築しスタッフのコミュニケーションを密にし、定期的にA、B Cの選手を評価し、入れ替えることで競争を促している。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
サッカートレーニング 1・2	プロの指導者からサッカーに関するスキルを学ぶとともに人間力の向上の為にメンタルトレーニングに励む。社会人リーグに勝つために必要とされる技術・戦術をM-T-M方式を用いてトレーニングする。	横浜マリノス株式会社
サッカートレーニング 3・4		

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にやっていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

1) 研修名「スポーツ×IOT・ICT」

(連携企業等：コードブック株式会社 細野貴文)

期間：令和1年8月3日 16:00-17:30

スポーツ・健康分野で活用できるIOT・ICTについて

2) 研修名「スポーツ×IOT・ICT」

(連携企業等：コードブック株式会社 細野貴文)

期間：令和2年8月23日16:00-16:45 ※3月実施予定がコロナにより延期-実施

我々を取り巻く環境・Withコロナ時代を考える

②指導力の修得・向上のための研修等

1) 研修名「コーチングについて」

(連携企業等：株式会社WACアカデミー 野本知里)

期間：例：令和1年8月18日 16:30-17:30

コーチングを用いての学生の対応

2) 研修名「コーチングについて」

(連携企業等：株式会社WACアカデミー 野本知里)

期間：令和2年3月11日10:00-12:00

言葉と表現力

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

1) 研修名「スポーツ×IOT・ICT」

(連携企業等：コードブック株式会社 細野貴文)

期間：令和2年8月23日16:45-17:40

Society5.0・New Normalのトレンドを考える

2) 研修名「Witコロナ時代におけるスポーツとIOT・ICT」(案)

(連携企業等：コードブック株式会社 細野貴文)

期間：12月～3月を予定

コードブック株式会社での事例紹介・IOT・ICTを活用した健康管理やモチベーションの維持・向上を図る手法と事例

②指導力の修得・向上のための研修等

1) 研修名「コーチングについて」

(連携企業等：株式会社ヒトスパイス 野本 知里)

期間：令和2年8月31日16:00-17:30

近年の学生を考えた指導力向上

2) 研修名「コーチングについて」(案)

(連携企業等：株式会社ヒトスパイス 野本 知里)

期間：12月～3月を予定

今期第1回目を踏まえたコーチングの考え方と伝え方

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1)理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	(2)運営方針(3)事業計画(4)運営組織(5)人事・給与制度(6)意思決定システム(7)情報システム
(3) 教育活動	(8)目標の設定(9)教育方法・評価等(10)成績評価・単位認定等(11)資格・免許取得の指導体制(12)教員・教員組織
(4) 学修成果	(13)就職率(14)資格・免許の取得率(15)卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	(16)就職等進路(17)中途退学への対応(18)学生相談(19)学生生活(20)保護者との連携(21)卒業生・社会人
(6) 教育環境	(22)施設・設備等(23)学外実習・インターンシップ等(24)防災・安全管理
(7) 学生の受入れ募集	(25)学生募集活動(26)入学選考(27)学納金
(8) 財務	(28)財務基盤(29)予算・収支計画(30)監査(31)財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	(32)関連法令、設置基準等の遵守 (33)個人情報保護(34)学校評価(35)教育情報の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	(36)社会貢献・地域貢献 (37) ボランティア活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

Society 5.0を踏まえた教育が必要との意見から、専門分野だけでなくインターネットなどのIT技術を中心に修得できるような学科・カレッジを超えたラボレーションを強化するとともに、コミュニケーションやビジネススキル向上、部分で積極的に勉強するようなアクティブラーニングの環境を整えるため、地域連携事業を積極的に推進する。

コロナ禍でのオンライン授業などに対応するため、利用し易いIT環境の整備を早急に進めていく。また、対面授業においても専門家からの意見を参考に、感染防止対策に万全を尽くしていく。

教員もコロナ禍における授業体制に対応するスキル向上のため、今年度も引き続き教員の就労環境の改善をはかりながら、自発的な能力開発及び向上を目的とした「学校法人片柳学園職員自己啓発支援制度」を積極的に活用できるよう教員の研修体制を整えていく。

募集活動においては、オンライン面談など将来を見据えた対策も早期に計画する。また、経済的な問題を抱えている学生へは、高等教育の新制度を周知しながら修学継続できるような支援策を計画していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	令和2年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社 グループマネージャー)	令和2年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	卒業生/IT企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 事務局長	令和2年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	地域関連
三井 隆裕	株式会社NVC(ヌーベルバーグカンパニー) 代表取締役	令和2年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	クリエイターズ 企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和2年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	ミュージック 企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 執行役員 企画戦略室 室長	令和2年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	デザイン 企業等委員
鈴木 浩之	株式会社田中建設 取締役 建築部長	令和2年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	テクノロジー 企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	令和2年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	スポーツ 企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務長	令和2年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	医療 企業等委員
宮崎 豊彦	八王子市私立保育園協会 会長 城山保育園 園長	令和2年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	医療・保育 団体等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他 ()) 令和2年9月30日

URL : <https://www.neec.ac.jp/announcement/28523/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、令和元年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <https://www.neec.ac.jp/announcement/28523/>

授業科目等の概要

(芸術専門課程スポーツ健康学科/サッカーコース) 2020年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ビジネススキル1	社会人になるために必要なヒューマンスキルを身につけます。	1・前	30	2	○			○		○		
○			ビジネススキル2	社会人になるために必要なコミュニケーション能力などを身につけます。	1・後	30	2	○			○		○		
○			PC活用	コンピュータのしくみから基本操作までを実習を通じて学びます。	1・前	30	1			○	○			○	
		○	MOS	マイクロソフト認定Word、Excel資格取得に向けて、必要な基礎知識を学びます。	1・後	30	1			○	○			○	
○			ゲーム分析1	サッカーに必要とされる攻撃、守備における個人戦術・グループ戦術を実技に沿った形で講義します。またJリーグやワールドクラスのゲームを戦術の部分から分析します。	1・前	15	1	○			○		○	○	
○			サッカーコーチ論1	コーチ、戦術、メンタル、フィジカル、オフザピッチなどサッカーに関わる分野を幅広く学びます。	1・前	15	1	○			○		○		
		○	予防とコンディショニング1	テーピングの手法について学びます。また競技特性に応じたコンディショニングや、環境整備についても学びます。	1・前	30	2	○			○		○	○	
○			ゲーム分析2	サッカーに必要とされる攻撃、守備における個人戦術・グループ戦術を実技に沿った形で講義します。またJリーグやワールドクラスのゲームを戦術の部分から分析します。	1・後	15	1	○			○		○	○	
○			サッカーコーチ論2	コーチ、戦術、メンタル、フィジカル、オフザピッチなどサッカーに関わる分野を幅広く学びます。	1・後	15	1	○			○		○		
○			サッカーゲーム1	神奈川県社会人サッカー公式戦とクラブユース・大学・高校との練習試合を実施します。	1・前	30	1			○	○	○	○	○	
○			サッカートレーニング1	社会人リーグに勝つために必要とされる技術・戦術を、M-T-M方式を用いてトレーニングします。	1・前	240	8			○	○		○	○	○

○		フィジカルトレーニング1	サッカー場・陸上競技場などを使用して、フィジカル強化（レベル1）を目的とします。	1・前	30	1				○	○		○	○	
	○	アウトドア実習A	オートキャンプ、カヌー、トレッキングなどのアウトドアライフの組立てについて、実習を通じて学びます。	1・前	30	1				○			○		
	○	キャンプインストラクター実習A	総合的な自然体験である「キャンプ」の指導者として、キャンプの楽しさを多くの人へ伝えられるようにキャンプの基礎を学習します。	1・前	30	1				○			○	○	
	○	コーチングインターンシップA	横浜マリノスサッカースクール、地域サッカースクールなどの現場実習を行います。	1・前	60	2				○			○		
	○	コーチング実習A	サッカースクール、学内などでコーチングの現場実習を行います。	1・前	30	1				○	○		○	○	
	○	スポーツ自由研究A	スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。	1・前	30	1				○	○		○		
	○	マリン実習A	レベルに応じたサーフィン・ボディボードの基本技能を理解します。	1・前	30	1				○			○		
	○	強化演習1	サッカーで強豪とされる地域への遠征ならびに練習試合を通して、チームの競技力向上を図ります。	1・前	30	1				○	○		○	○	
	○	強化合宿1	短期集中で合宿を行い、技術・戦術・体力面の向上を図ります。	1・前	30	1				○			○	○	
○		サッカーゲーム2	神奈川県社会人サッカー公式戦とクラブユース・大学・高校との練習試合を実施します。	1・後	30	1				○	○		○	○	
○		サッカートレーニング2	社会人リーグに勝つために必要とされる技術・戦術を、M-T-M方式を用いてトレーニングします。	1・後	240	8				○	○		○	○	○
○		フィジカルトレーニング2	サッカー場・陸上競技場などを使用して、フィジカル強化（レベル2）を目的とします。	1・後	30	1				○	○		○	○	
	○	D級コーチ	公益財団法人日本サッカー協会公認D級コーチ取得をめざします。	1・後	30	1				○	○		○		
	○	コーチングインターンシップB	横浜マリノスサッカースクール、地域サッカースクールなどの現場実習を行います。	1・後	60	2				○			○		

		○	コーチング実習B	サッカースクール、学内などでコーチングの現場実習を行います。	1・後	30	1				○	○	○	○		
		○	スキー実習A	レベルに応じたスキーの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	1・後	30	1				○		○		○	
		○	スノーボード実習A	レベルに応じたスノーボードの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	1・後	30	1				○		○		○	
		○	スポーツ自由研究B	スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。	1・後	30	1				○	○		○		
		○	強化演習2	サッカーで強豪とされる地域への遠征ならびに練習試合を通して、チームの競技力向上を図ります。	1・後	30	1				○	○	○	○	○	
		○	強化合宿2	短期集中で合宿を行い、技術・戦術・体力面の向上を図ります。	1・後	30	1				○		○	○	○	
		○	短期海外研修A	ドイツ、オランダ、スペインなどの海外サッカーについての理解を深めます。	1・後	60	2				○		○	○	○	
		○	4級審判	サッカー4級審判取得のための講習会に参加します。	1・通	30	1				○	○			○	
		○	スポーツトレーニング実習A	メディカルフィットネスセンターなどを週1回利用して、トレーニング実践方法について学びます。	1・通	60	2				○	○		○	○	
		○	スポーツトレーニング実習B	メディカルフィットネスセンターなどを週2回以上利用して、トレーニング実践方法について学びます。	1・通	120	4				○	○		○	○	
		○	社会体育実習A	学外などにおいて現場の実践的な経験を積み、指導者としての資質を高めます。	1・通	60	2				○		○	○		
		○	日本赤十字社救急法A	日本赤十字社の救急法に関する知識と技術について学びます。	1・通	30	1				○	○	○		○	
		○	キャリアアップセミナーA	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	1・通	15	0				○	○			○	
		○	キャリアアップセミナーB	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	1・通	30	1				○	○			○	

		○ マリン実習 B	レベルに応じたサーフィン・ボディボードの基本技能を理解します。	2 ・ 前	30	1			○		○		○	
		○ 強化演習 3	サッカーで強豪とされる地域への遠征ならびに練習試合を通して、チームの競技力向上を図ります。	2 ・ 前	30	1			○	○	○	○	○	
		○ 強化合宿 3	短期集中で合宿を行い、技術・戦術・体力面の向上を図ります。	2 ・ 前	30	1			○		○	○	○	
○		ビジネススキル 4	社会人になるために必要なヒューマンスキルおよび、ビジネス検定合格のためのスキルを身につけます。	2 ・ 後	30	2	○			○		○		
○		ゲーム分析 4	サッカーに必要とされる攻撃、守備における個人戦術・グループ戦術を実技に沿った形で講義します。またJリーグやワールドクラスのゲームを戦術の部分から分析します。	2 ・ 後	15	1	○			○		○	○	
○		サッカーゲーム 4	神奈川県社会人サッカー公式戦とクラブユース・大学・高校との練習試合を実施します。	2 ・ 後	30	1			○	○	○	○	○	
○		サッカーコーチ論 4	コーチ、戦術、メンタル、フィジカル、オフザピッチなどサッカーに関わる分野を幅広く学びます。	2 ・ 後	15	1	○			○		○		
○		サッカートレーニング 4	社会人リーグに勝つために必要とされる技術・戦術を、M-T-M方式を用いてトレーニングします。	2 ・ 後	240	8			○	○		○	○	○
○		フィジカルトレーニング 4	サッカー場・陸上競技場などを使用して、フィジカル強化（レベル4）を目的とします。	2 ・ 後	30	1			○	○		○	○	
		○ C級コーチ	公益財団法人日本サッカー協会公認C級コーチ取得をめざします。	2 ・ 後	30	1			○	○			○	
		○ コーチングインターンシップ D	横浜マリノスサッカースクール、地域サッカースクールなどの現場実習を行います。	2 ・ 後	60	2			○		○		○	
		○ コーチング実習 D	サッカースクール、学内などでコーチングの現場実習を行います。	2 ・ 後	30	1			○	○	○	○		
		○ スキー実習 B	レベルに応じたスキーの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	2 ・ 後	30	1			○		○		○	
		○ スノーボード実習 B	レベルに応じたスノーボードの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	2 ・ 後	30	1			○		○		○	

		○	スポーツ自由研究D	スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。	2・後	30	1				○	○		○				
		○	強化演習4	サッカーで強豪とされる地域への遠征ならびに練習試合を通して、チームの競技力向上を図ります。	2・後	30	1				○	○	○	○	○			
		○	強化合宿4	短期集中で合宿を行い、技術・戦術・体力面の向上を図ります。	2・後	30	1				○		○	○	○			
		○	短期海外研修B	ドイツ、オランダ、スペインなどの海外サッカーについての理解を深めます。	2・後	60	2				○		○	○	○			
		○	3級審判	サッカー3級審判取得のための講習会に参加します。	2・通	30	1				○	○						○
		○	インターンシップ1	横浜マリノスサッカースクール、地域サッカースクールなどでインターンシップを経験します。	2・通	45	1				○		○					○
		○	キャリアアップセミナーE	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	2・前	15	1	○					○					○
		○	キャリアアップセミナーF	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	2・前	30	2	○					○					○
		○	キャリアアップセミナーG	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	2・前	45	3	○					○					○
		○	キャリアアップセミナーH	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。	2・前	60	4	○					○					○
		○	スポーツレーニング実習C	メディカルフィットネスセンターなどを週1回利用して、トレーニング実践方法について学びます。	2・通	60	2				○	○			○	○		
		○	スポーツレーニング実習D	メディカルフィットネスセンターなどを週2回以上利用して、トレーニング実践方法について学びます。	2・通	120	4				○	○			○	○		
		○	社会体育実習B	学外などにおいて現場の実践的な経験を積み、指導者としての資質を高めます。	2・通	60	2				○				○			
		○	日本赤十字社救急法B	日本赤十字社の救急法に関する知識と技術について学びます。	2・通	30	1				○	○	○					○

○		成果発表	在学中に学んだ事を基に成果発表のための企画・準備・運営を実施します。	2 ・ 通	60	2			○	○		○		
合計				82 科目	3765単位時間 (138単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業時に必修科目1530時間(59単位)および選択科目170時間(7単位)以上取得し、合計1700時間(66単位)以上取得すること。	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。